

## 十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台  
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

昨日（5月31日）01時頃から62-2火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震が増加しました。地震活動は、2026年4月頃から次第に高まっており、一時的な回数の増加も時折認められています。

62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では、噴煙・噴気が多く、特に62-2火口付近はごく微弱な発光現象が時々みられるなど、活発な熱活動が続いています。また2026年3月以降、火山性微動や火山性地震と同期するわずかな傾斜変動、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加が観測されています。

火山活動はわずかに高まる傾向にあり、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

### ○活動概況（図1～5）

昨日（5月31日）01時頃から62-2火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震が増加し、6月1日12時までの前24時間の地震回数は82回（速報値）となっています。地震活動は、2026年4月頃から次第に高まっており、一時的な回数の増加も時折認められています。

監視カメラによる観測では、昨日からの地震増加の前後で各火口の噴煙・噴気の状態に特段の変化は認められません。

### ○活動評価

62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では、噴煙・噴気や火山ガス（二酸化硫黄）放出量が多く、特に62-2火口ではごく微弱な発光現象が時々認められるなど熱活動が活発な状態です。2026年4月頃からは地震活動も次第に高まっており、火山活動はわずかに高まる傾向にあります。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

---

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

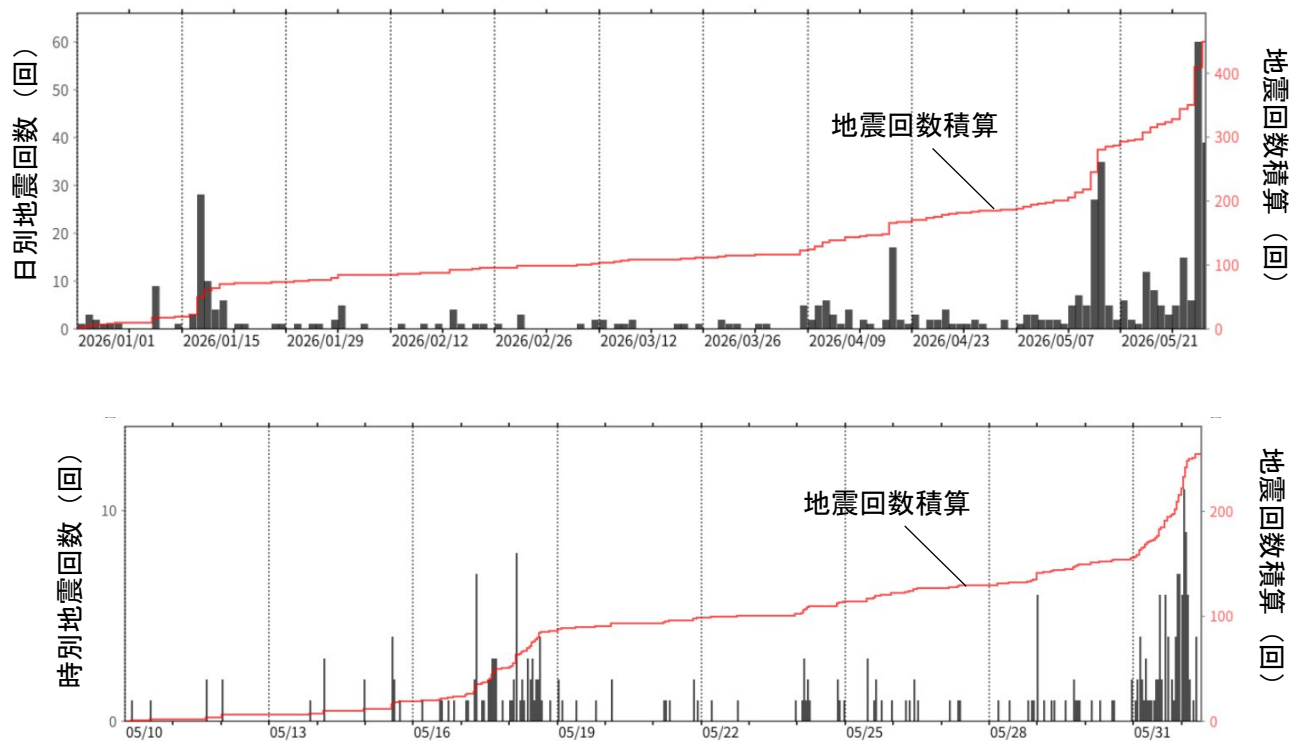


図1 十勝岳 火山性地震の発生状況

上：日別地震回数（2026年1月1日00時～6月1日10時（速報値））

下：時別地震回数（2026年5月10日00時～6月1日10時（速報値））

いずれも62-2火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震の回数

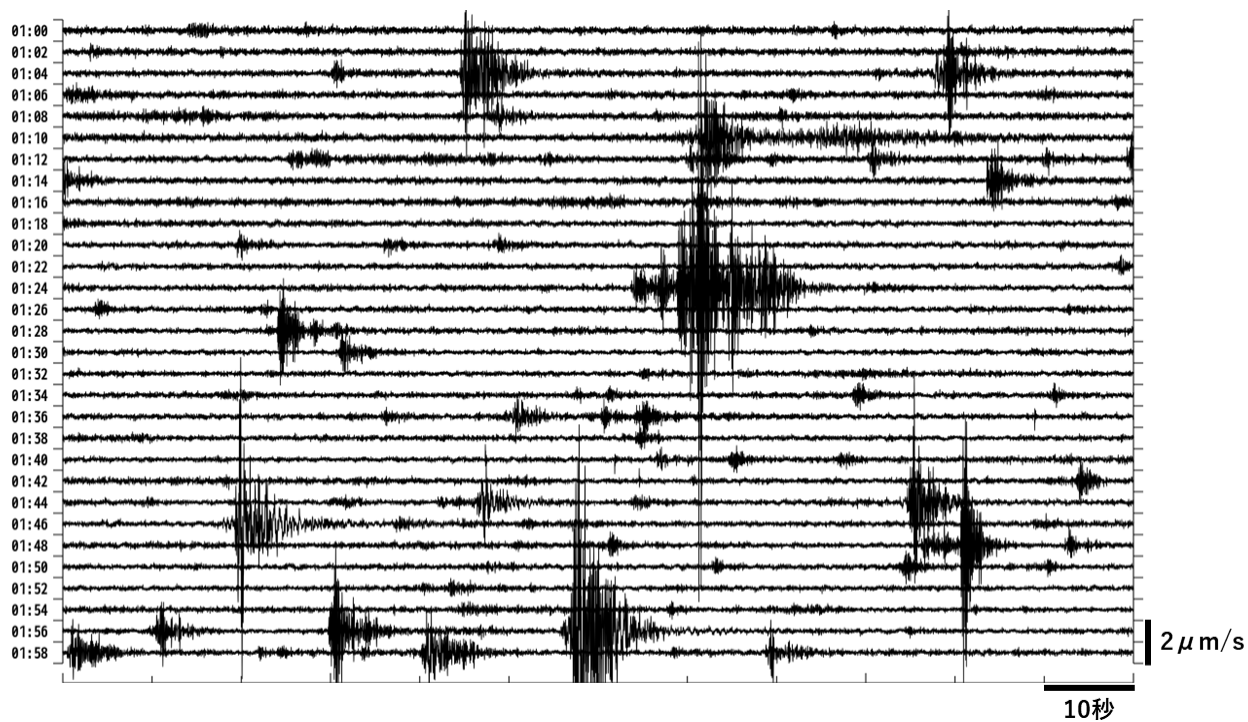


図2 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（6月1日01時00分～02時00分）

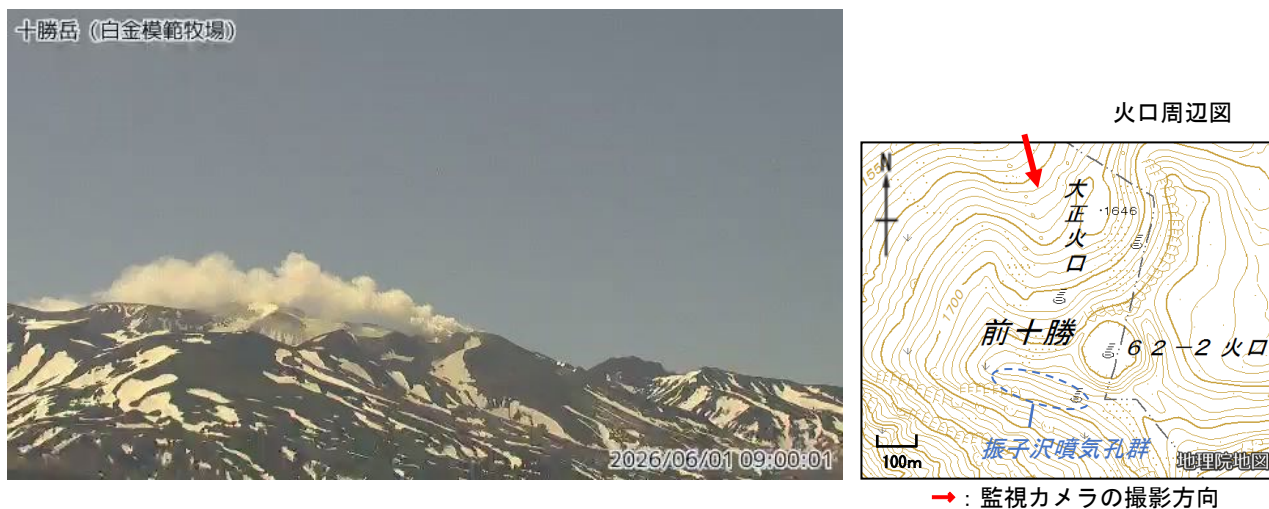


図3 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（白金模範牧場監視カメラによる）及び火口周辺図

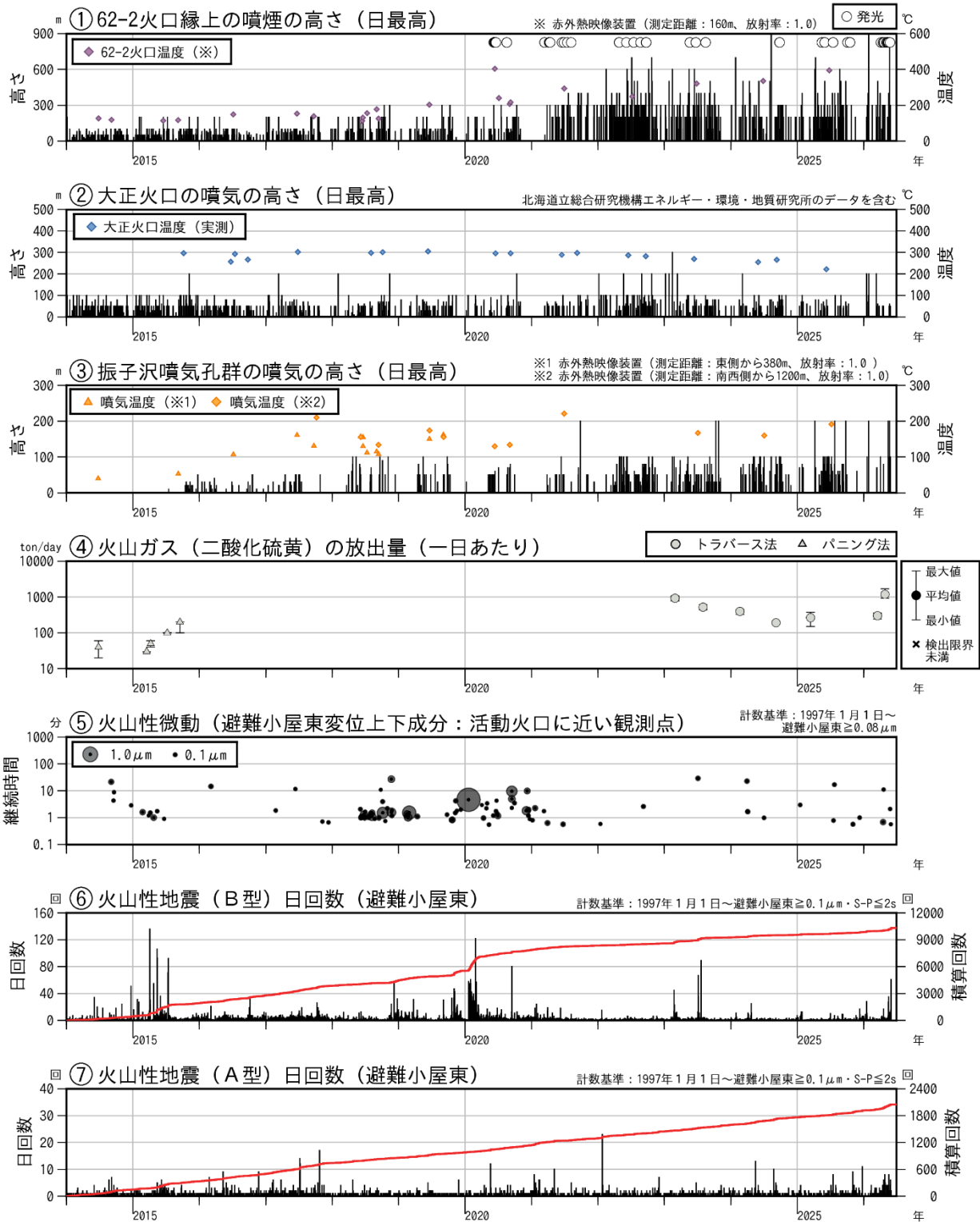


図4 十勝岳 火山活動経過図（2014年1月～2026年6月1日）

- ④は気象庁による観測結果のみを示します。
- ⑥は主に62-2火口付近のごく浅い所（図5参照）で発生したと推定されるB型地震の回数、
- ⑦は主にその周辺で発生したと推定されるA型地震の回数を示します。

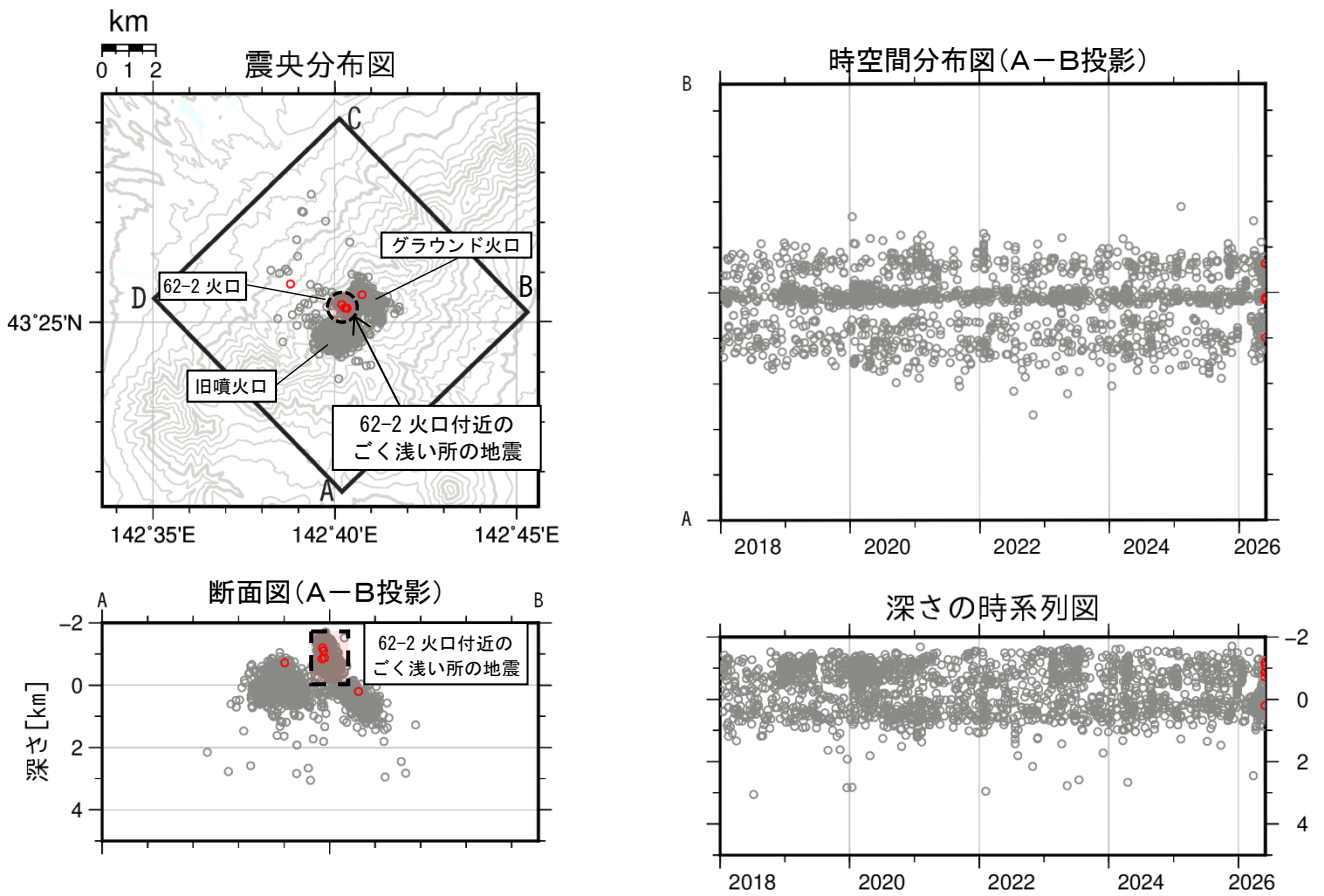
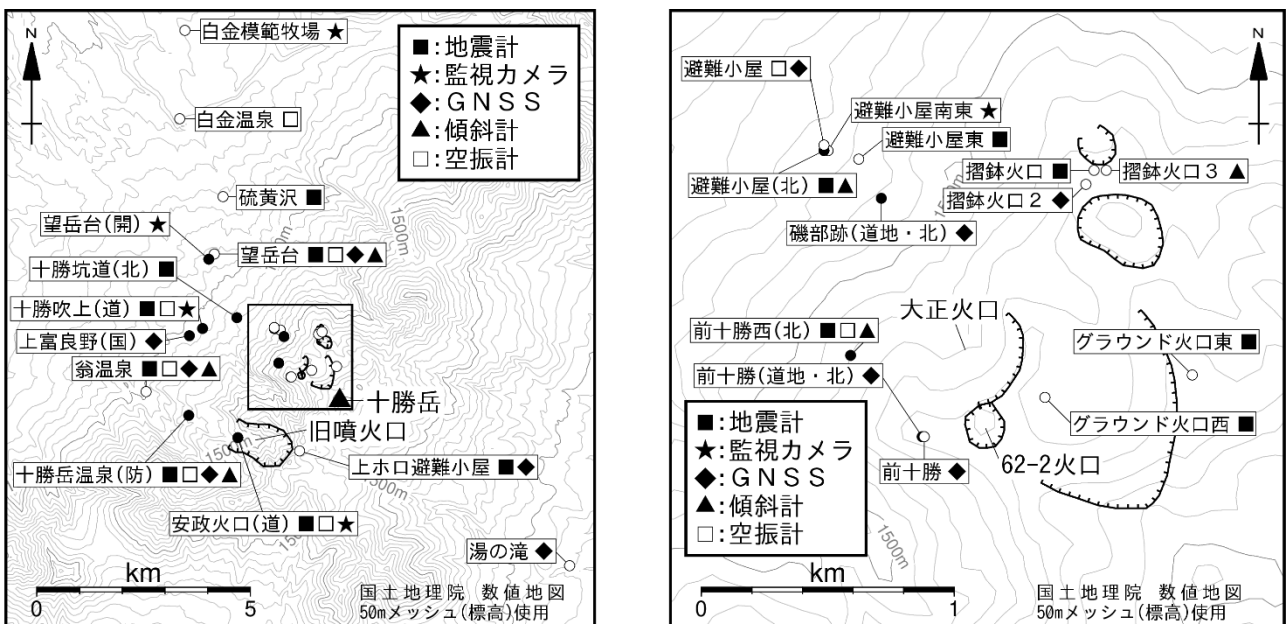


図5 十勝岳 火山性地震の震源分布 (2018年1月1日~2026年6月1日)  
○: 2018年1月~2026年5月30日の震源 ○: 2026年5月31日~6月1日の震源



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。  
(開): 国土交通省北海道開発局、(国): 国土地理院、(北): 北海道大学、(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道): 北海道、(道地): 地方独立行政法人北海道立総合研究気候エネルギー・環境・地質研究所

図6 十勝岳 観測点配置図